



ISSN 0385-0838

第 150 号

発行所

亜細亜大学アジア研究所
東京都武蔵野
市境 5-24-10
電話 0422(54)3111
郵便番号 180-8629

韓米FTA発効一年と 日本のTPP交渉参加表明

奥田 聡

韓米FTAとTPPの奇縁

三月一五日、韓米FTA（自由貿易協定）が発効一周年を迎えた。奇しくも、この日は日本の安倍晋三首相がTPP（環太平洋経済連携協定）交渉への参加を表明した日でもある。

日本のTPP交渉への参加が認められた場合、参加国のGDP総額に占める日米の割合が約八割に達するため、しばしばTPPは事実上の日米FTAであるといわれる。事実、昨今の日本でのTPPを巡る関心はもっぱらアメリカの対日要求をどのようにかわすかに向けられているようである。

政治・経済的に大きな影響を与えるアメリカとの交渉に日本の官民が神経質になるのは無理もないことである。

そこで、日本でふたたび注目されるようになったのが韓米FTAである。アメリカとの交渉経過やその内容から日本のTPP交渉の今後の方向を少しでも見通したいとの心理が韓米FTAへの関心を高めているのである。

TPP参加を契機に韓米FTAに 再照明

韓米FTAへの関心が「ふたたび」高まったと書いたのは、過去に一度日本でも

へ目次

- 韓米FTA発効一年と日本のTPP交渉参加表明 ……奥田 聡 …… (1)
- 内モンゴルにおける牧畜地域政策動向 ……ネメフジャルガル …… (4)
- チャイナ・プラス・ワン
カンボジアのビジネス環境をみる(1) ……藤原 弘 …… (6)
- 北朝鮮の核脅威下の韓国
—2013年3月の韓国現地調査— ……野副 伸一 …… (8)
- 日中経済交流・井戸を掘った人に聞く
藤野文昭【第一回】 ……遊川 和郎 …… (10)
- 「アジアの窓」
TPP交渉参加と貿易自由化の理解 ……石川 幸一 …… (12)

同FTAへの関心が高まったことがあったからである。韓米FTAは、二〇〇六年五月の交渉開始からわずか一〇か月あまりの二〇〇七年三月に早くも妥結し、その鮮やかな交渉ぶりは諸外国をいたく驚嘆させた。日本もまた韓米間のスピーディーな交渉に驚いた国の一つであった。しかし、振り返ればこの時の韓米FTAへの関心は一時的なものにとどまり、韓国によるFTA政策展開の加速が日本自身のFTA展開の背中を押すには至らな

いまま年月が徒過していった。しかし、今回はTPP交渉への参加を政府が正式表明するに至ったという点で、日

本の国内事情が大きく変わった。ここで改めて韓米 FTA において韓国がどのような要求を受け、それに対してどの程度の譲歩を余儀なくされ、結局何を守ったのか、国内補償対策をどのように行ったのか、反対運動にはどう対処したのか、といった事柄に注目が集まっているというわけである。

韓米 FTA 自体も二〇〇七年の妥結以後相当の紆余曲折を経ていて、批准に向けての国内外対策で韓国政府は苦労を強いられた。妥結後、アメリカ側での未曾有の自動車業界再編を背景に韓国完成車の流入に対する業界の反発が強く、議会での批准が遅れた。このこう着状況を打開すべく韓国が譲歩、アメリカ市場での完成車に対する FTA 適用を四年間猶予する修正協定が二〇一〇年一月に署名され、アメリカでの批准の見通しが開けた。しかし、商品貿易部門で韓国が最も恩恵を受けるとみられたアメリカ向け完成車への FTA 適用を当面棚上げにしたことで、「対米屈辱外交」との批判が韓国政府に対して向けられ始める。これとほぼ時を同じくして、韓米 FTA には韓国にとって実は有害な条項が含まれているとする、いわゆる「毒素条項」説がネットを中心に広く流布されるようになった。ISDS（国家—投資家間紛争解決手続き）条項やラチェット条項、間接収用へ

の被害補償条項など一二条項であり、これらによって国家主権侵害、政策実行の制約の弊害がもたらされると反対論者は主張した。こうした批判に対して、韓国政府は素早く反論を展開したが、韓国の野党民主党が毒素条項を大々的に取り上げて批准に抵抗する一幕もあった。韓米 FTA に対する国論が二分されるなか、二〇一一年一月、ついに韓国でも同 FTA は批准されるに至ったのであった。

このように、韓米 FTA の交渉開始から妥結、批准、発効、そして発効後一年を迎えた現在に至るまでの道のりは平たんなものではなかった。TPP による市場開放のメリットを見据えながらも、日本の官民はこれまでの日米経済摩擦への対処の経験から、TPP 交渉、とりわけアメリカとの交渉の行方を長く苦しいものとみて恐れている。TPP の影響を恐れる声は農業のみならず、医療、保険、知的所有権など多方面について上がっている。そのうえ、韓国のネット上に流布された「毒素条項」の言説が日本にも流入し、TPP 反対のよりどころの一つとして利用されているのが現状である。そんな今、日本は韓米交渉における韓国のありようを TPP 交渉でアメリカと対峙することを余儀なくされている自身の近未来の姿に重ね写ししているといっても過言ではあるまい。

韓米 FTA 発効後一年の効果を検証

韓米 FTA が発効してから一年を迎える節目をとらえ、同 FTA が韓国にもたらした変化を見ておくことにしよう。日本の TPP 加入でどんな変化が起きるかについてもながしきの示唆を与えることであろう。

ここでは主として貿易について見ていく。価格弾性値を用いた事前の影響予測とは異なり、この種の事後評価は独特の困難さを伴うことをあらかじめ言っておかねばならない。FTA 発効後の輸入額を変動させるのは FTA に伴う関税引き下げや非関税措置の変更にだけではない。観測者が手にできるデータは、輸出入当事国および世界の景気や為替レート、物価動向、生産技術の変化、消費者の嗜好変化など、ありとあらゆる変動要因の入り混じった結果としての輸入額だけである。ただ、これら FTA 以外の要因は FTA 締結相手以外の第三国からの輸入にも影響を与えているため、第三国からの輸入動向もあわせてみることで FTA の影響のアウトラインを推測することは依然として可能であろう。ここでは、主要競争相手の韓国およびアメリカ市場での動向もあわせてみることにしよう。F TA の効果をより立体的に推測することに努めたい。ここで用いるのは、二〇一二年四月から一二月までの九か月間の韓国およびアメリカの輸入データで、韓米 FTA の当事国からの輸入だけではなく、日本、EU、中国、台湾などの主要競争国から

の輸入もあわせて見ることにする。

韓国の輸入が韓米 FTA 発効後どう動いたかは TPP 加入後の日本の輸入動向を占ううえでの参考となる。まず、韓国市場での輸入の動きを見てみよう(表 1)。韓米 FTA 発効後九か月で韓国の対米輸入総額は八・八%減少した。これを FTA 対象品目(対米関税撤廃および削減品目)と FTA 非対象品目(FTA 発効前より免税であった品目および除外・関税減免猶予品目)に分けてみると、それぞれ八・八%減、八・九%減となり、FTA が品目別輸入に与える影響は現段階では不明と言わざるを得ない。FTA 対象品目の対米輸入について、商品群別にさらに詳細に分析してみても、関税率が半減となった自動車の対米輸入が目立つほかは全般に低調であった。TPP に伴う追加開放と関連してその動向が注目される農水畜産物の輸入もオレンジ、チェリー、アーモンドといった個別品目での輸入増はみられたが、FTA 対象となった農水畜産物全体の輸入は FTA 発効後九か月で一・九・八%減少した。この間、対世界輸入額は景気減速の影響を受けて前年同期比三・六%減少したが、対米輸入はこれよりもさらに減少しており、韓米 FTA が韓国の対米輸入を増やすであろうという事前の予想と反する結果となっている。いずれにせよ、韓国市場では韓米 FTA の影響がマクロレベルでは目に見える形では出ていないのが現状である。

韓国側が韓米 FTA のメリットとして挙

げる対米輸出はどうか? 次は韓米 FTA 発効後のアメリカ市場における輸入の動きを見ることにする(表 2)。同 FTA 発効後九か月間のアメリカの対韓輸入は前年同期比二・〇%増加した。このうち、FTA 非対象品目は四・三%減少したのに対し、FTA 対象品目が一五・八%増と順調な伸びを見せた。この点を韓国政府や大手紙は同 FTA の成果と強調するが、競争諸国の実績を併せて見ると手放して喜べないことがわかる。同期間、アメリカの対中、対日輸入は対韓輸入を上回るペースで増え、それぞれ五・八%、一三・〇%増えた。韓米 FTA の対象品目に限定しても対日輸入増加率が一七・七%と、対韓輸入を上回る快調ぶりを見せた。アメリカの対日輸入は、東日本大震災に伴う落ち込みからの回復という面も否定できないが、韓米 FTA 対象品目については対中、対台湾輸入も二けたの伸びを示すなど好調で、韓米 FTA によって韓国がアメリカ市場で独り勝ちを収めている状況ではなさそうである。

現在観察できるデータに基づく限りでは、韓米 FTA の影響についてはその方向を断定しがたい。韓国の農産物への影響も今のところ軽微であり、TPP 推進論者にとっては有利な材料とも見える。ただし、済州島で生産される高級柑橘類の価格下落による農家の被害も報道されており、個別補償がどのように行われるかについては引き続き注視していく必要がある。

(おくださとる アジア研究所教授)

表 2 韓国 FTA の効果 (米国市場輸入、2012 年 4~12 月、前年同期比増加率、%)

	総輸入	FTA による		金額 (百万 ^{ドル})
		既免税・除外品目	減免品目	
韓国	2.0	-4.3	16.8	44,163
中国	5.8	2.1	10.9	330,681
E U	2.1	1.6	2.8	283,115
日本	13.0	10.8	17.7	107,969
台湾	-6.4	-14.8	11.7	29,889
その他	-1.6	-0.7	-2.4	908,941
世界	1.2	0.7	1.7	1,704,758
金額(百万 ^{ドル})		896,878	641,338	

出所: アメリカ国際貿易委員会発表の貿易統計 (<http://dataweb.usitc.gov>) を用いて筆者が計算。

表 1 韓国 FTA の効果 (韓国市場輸入、2012 年 4~12 月、前年同期比増加率、%)

	総輸入	FTA による		金額 (百万 ^{ドル})
		既免税・除外品目	減免品目	
米国	-8.8	-8.8	-8.9	31,521
中国	-8.2	-10.2	-6.7	60,748
E U	4.5	-8.8	9.1	38,182
日本	-7.9	-12.3	-5.5	47,529
台湾	-5.6	-3.6	-11.4	10,472
その他	-1.5	70.3	-6.6	197,507
世界	-3.6	6.1	-8.7	385,958
金額(百万 ^{ドル})	385,958	98,950	287,008	

出所: 韓国貿易協会ウェブページ (<http://www.kita.net>) 所載の韓国貿易統計を用いて筆者が計算。